

ONLINE
SEMINAR

生命科学交流ミーティング

2020.5.14(Thu) START 12:15~

Zoom 配信

発表30分、質疑応答10分を予定しています。
30 min. talk, 10 min. question time.

QRコードは
配信メールでのみ
表示されます。



テレビ会議システムZoomで配信いたします。
左のQRコードから、ミーティングに参加できます。
Read the QR code (left) to watch the talk
on Zoom online meeting system.

講義の予習に役立つ動画やテキストへのリンク
English lecture and texts are available.

予習用コンテンツ/References

QRコードは
配信メールでのみ
表示されます。



English/日本語

Google Forms opens.
Login with your account
to proceed.

メダカの個体認知を介した配偶者選択とその分子神経基盤

個体認知能力を持つ動物は、集団内の他メンバーを記憶・識別して、他者との関係を理解した上で、自らの行動を適切に選択する。このような社会適応に関わる脳機能（社会的コンピテンス）の研究はヒトやサルを中心に進められていた。しかし近年になって高度な社会的認知能力を持つことが示された。例えばヒエラルキーを持つシクリッドの一種は仲間を見分けて、上位の個体が現れると逃避する一方で、下位の個体には接近する傾向がある。私たちはメダカの社会性行動を解析する過程で、メダカも個体認知に基づく高度な社会性を示すことを発見した。メスマダカは性行動の前に長時間見ていたオスを視覚記憶し、「見知ったオス」を性的パートナーとして選択し、「見知らぬオス」を拒絶する傾向がある。さらに行動異常を示す変異体を検索し、行動異常の原因となる神経細胞を同定することで、メスのオスの受入れ・拒絶の意思決定に関わる神経機構を解明した。本交流ミーティングでは、メダカを用いた基礎研究が動物の社会適応能力を生み出す分子神経基盤の理解にどのように貢献できるかについても議論したい。



東北大学 分子行動分野
竹内 秀明 教授
Prof. Hideaki Takeuchi



Reference : Wang & Takeuchi eLife (2017) 6:e24728, Yokoi et al., PLoS Genetics (2015) 11:e1005009, Okuyama et al., Science (2014) 343: 91-94, Yokoi et al., PNAS (2020)

Organizers: Yuki. Hata, Shun Hiramatsu
Members: 山根梓 (President)、小日向寛之、松本健太郎、
吉野倫太郎、小廣健太、廣邊奈々、古井瑛恵、渡部佑、
大沼芽生、畑中龍平、森谷毅生
E-mail : azusa.yamane.t2@dc.tohoku.ac.jp
(Azusa Yamane, D1, from Arimoto's Lab.)